

# 留学要約レポート

## 一長部亮太

私は、留学に参加するか相当悩みました。留学に行く男の子が自分一人だけで、留学のメンバーと一緒にやれることができるのか、かなり不安でした。また、今まで住み慣れていた家を離れて、ロシアの地で4か月間生活することは、なりより不安が大きかったです。それでも、ロシアに行って、学べることは、今しかできない経験だと思うし、自分の考えや意見をロシア語で言うことができれば、少しでも変われると思いました。また、私は、大学生活を悔いなく終わらせたいという気持ちが自分の考えにあり、最終的に留学に行くことに決めました。

授業は、最初どの先生のロシア語も何を言っているのか分かりませんでした。この先が不安でいっぱいでした。最初の1か月くらいは、授業でやっている内容や宿題の内容があまり理解できず、自分の成長を感じませんでした。しかし、私は、授業の形式に慣れるために、先生がロシア語で話していることをノートにメモしました。また、分からなかった単語は、辞書で調べることをして、少しずつではあるが、どの先生のロシア語も分かるようになり、成長を感じました。

私は、韓国の留学生と生活することができたのが、一番楽しい思い出でした。韓国の留学生と仲良くなることができたのは、10月の初め頃だったと思います。韓国の留学生と一緒に遊ぼうと誘ってくれました。ウラジオストクの中心部に行き、ビリヤードをしたり、海を眺めたり、ご飯を食べることができ、とっても楽しい時間を過ごすことができた。しかし、出会って間もないころは、韓国の留学生とどう接すればいいか分からず不安でした。それでも、勇気を振り絞って、ロシア語で話してみると、みんな優しく、簡単なロシア語で、話してくるので、私ももっと話したいという気持ちが強くなりました。韓国の留学生は、

自国のことについてたくさん紹介してくれた。私も、自分が通っている大学や家族のことなど、ロシア語で紹介することができてよかったです。

ウラジオストクでは、日本の車が頻繁に走っているところを見掛けたり、日本の自動販売機や日本の製品などを目にしたりすることができた。日本の面影が残っていることがわかり、それと同時に、日本とロシアは結び付きが強い国であるということもわかった。ウラジオストク市内には、たくさんの協会があり、ヨーロッパ風の建物なども見ることもできた。また、たくさんのカフェなどを目にすることもできた。店内は、とっても落ちついた空間で、おいしいケーキやクロワッサンなどを食べることもできた。また、ウラジオストク市内から少し歩けば、海を見ることができた。ウラジオストクの海は一面に澄んでいて、水が透き通っていました。また、冬になると、辺り一面に凍っていて、凍った海の上を歩くことができました。

留学に行く前は、かなりの不安があったものの、ウラジオストクに過ごした四か月間は思ったほど、あっという間に過ぎていきました。ロシア組の女の子にはさまざまところで助けてくれました。私は、留学を通じて、できないながら積極的にロシア語で言うことができたと思う。慣れない環境の中で、生活することで、留学のメンバーと自然に会話ができるようになり、自分の成長を感じました。自分のことは、自分でしないといけないと改めて、実感しました。また、韓国の留学生と一緒に生活したり、接したりすることで、お互いの国の良さがわかるようになったし、なりより、韓国の留学生と一緒に生活できたことが、私にとって、楽しい思い出でした。留学で学んだことを生かして、これからのロシア語の勉強に励み、大学生活を楽しみたいと思った。